

戦没者の遺骨鑑定の取組状況について

戦没者遺骨鑑定センター（概要）

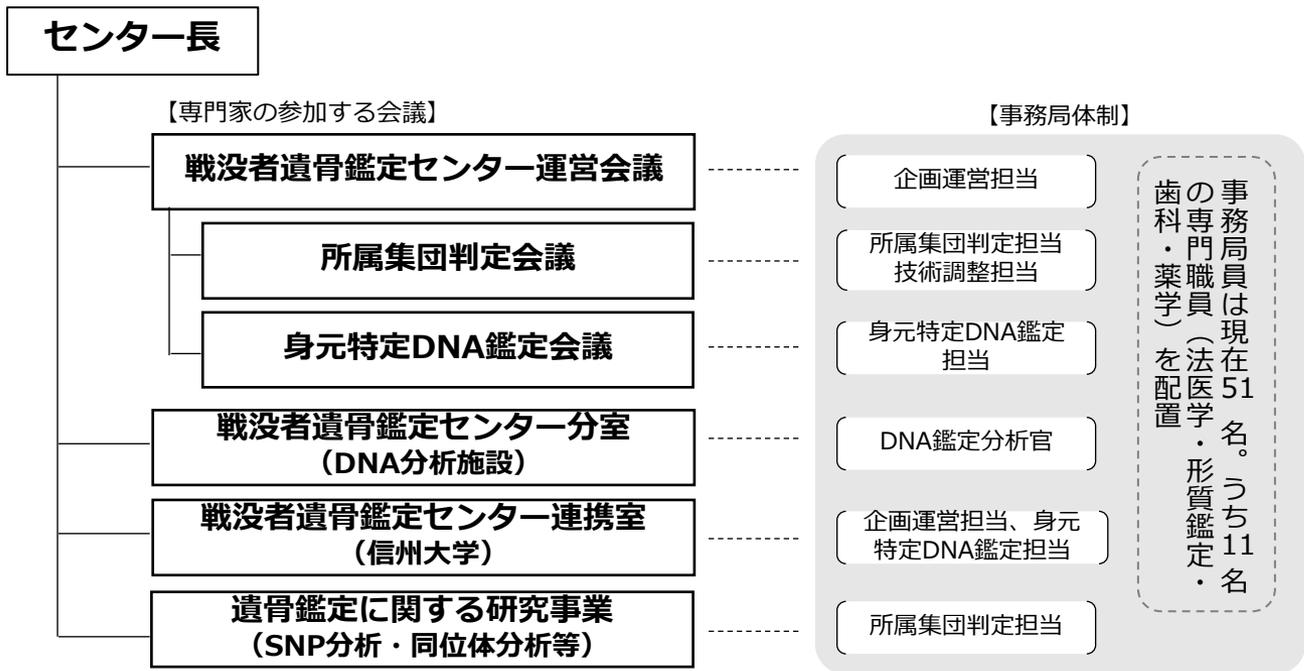
（令和6年7月末現在）

業務内容

- 遺骨の科学的な鑑定
 - ・日本人か否かの所属集団判定（形質鑑定、DNA鑑定）
 - ・遺族との身元特定
- 遺骨収容に関する技術的事項
- 戦没者遺骨の鑑定に関する研究
 - ・最新の技術、研究の実務への応用を目指す
- 諸外国の鑑定機関との共同鑑定

戦没者遺骨鑑定センターの体制

※社会・援護局に設置（令和2年7月16日に大臣伺い定めとして立上げ）



戦没者の遺骨収集に関する有識者会議

戦没者遺骨鑑定センターの運営を含む遺骨収集事業全般について定期的に報告し外部有識者の意見をいただく

戦没者遺骨鑑定の実施状況等について

1 戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定

- 平成15年度から、遺留品等の手掛かり情報がある場合に、戦没者を特定し、関係遺族に連絡。遺族の申請に基づき、身元特定のためのDNA鑑定を実施
 - 遺留品等の手掛かり情報のない戦没者遺骨については、試行的取組の結果を踏まえ、令和3年10月から厚生労働省が検体を保管する全地域を対象にDNA鑑定を実施（※）
- （※）手掛かり情報がない遺骨について、身元特定のためのDNA鑑定により、令和2年度に硫黄島の遺骨2柱及びキリバス共和国タラフ環礁の遺骨2柱、令和4年度に硫黄島の遺骨1柱の合計5柱について、身元を特定
- 平成15年度から令和6年7月末までに遺族から7,852件の申請を受理（うち令和3年10月以降の手掛かり情報のない戦没者遺骨に係る申請は2,763件）
（実績）（令和6年7月末現在）

身元特定	審議件数（平成15年度～令和6年度）	
	6,264件	身元が判明 1,270件

3 戦没者遺骨の鑑定体制の強化

- 戦後80年近くが経過し遺族が高齢化する中で一柱でも多くの遺骨の身元を早く特定することが必要であることに加えて、令和2年5月にとりまとめた「戦没者遺骨収集事業及び実施体制の抜本的な見直し」を受けて、日本人と判明しない限り遺骨全体の送還が実現しないことから、遺骨の科学的鑑定体制の強化が必要
- 鑑定機関に委託して鑑定することに加えて、令和4年9月、厚生労働省自らも専門家を雇用して分析施設を設置。遺骨検体の送還後、直ちに鑑定に着手できるよう、鑑定の迅速化、鑑定体制の強化を図る
- 令和6年4月、戦没者遺骨のDNA鑑定の迅速化及び高度化に寄与することを目的とし、「信州大学医学部と厚生労働省社会・援護局との連携に関する協定書」を締結。同大学構内に連携室を設置し、DNAの抽出や解析が難しい事案の研究などに集中的に取り組む。

2 戦没者遺骨の所属集団判定

- 戦没者遺骨の所属集団判定については、令和2年度から、DNA分析結果等を踏まえた判定を実施
- 日本人の可能性が低いと判定した遺骨については、相手国政府と返還協議を実施
- DNAの著しい劣化等により判定不能な遺骨は、国立科学博物館において次世代シーケンサによるSNP分析（※）を実施。令和4年12月より、SNP分析結果を含めて遺留品や埋葬情報等を総合的に勘案して所属集団を判定
（※）SNP分析：劣化したDNA断片からDNA配列を分析。出土人骨の分析にも活用
- 令和4年度から同位体分析の遺骨鑑定への活用に関する研究事業を実施し、日本人に関する同位体データ等を検証
（実績）（令和6年7月末日現在）

所属集団	判定結果（令和2年度～令和6年度）		
	8,876件	日本人遺骨 7,271件	判定不可 1,372件

令和5年度及び令和6年度における戦没者遺骨の身元・所属集団の確認状況

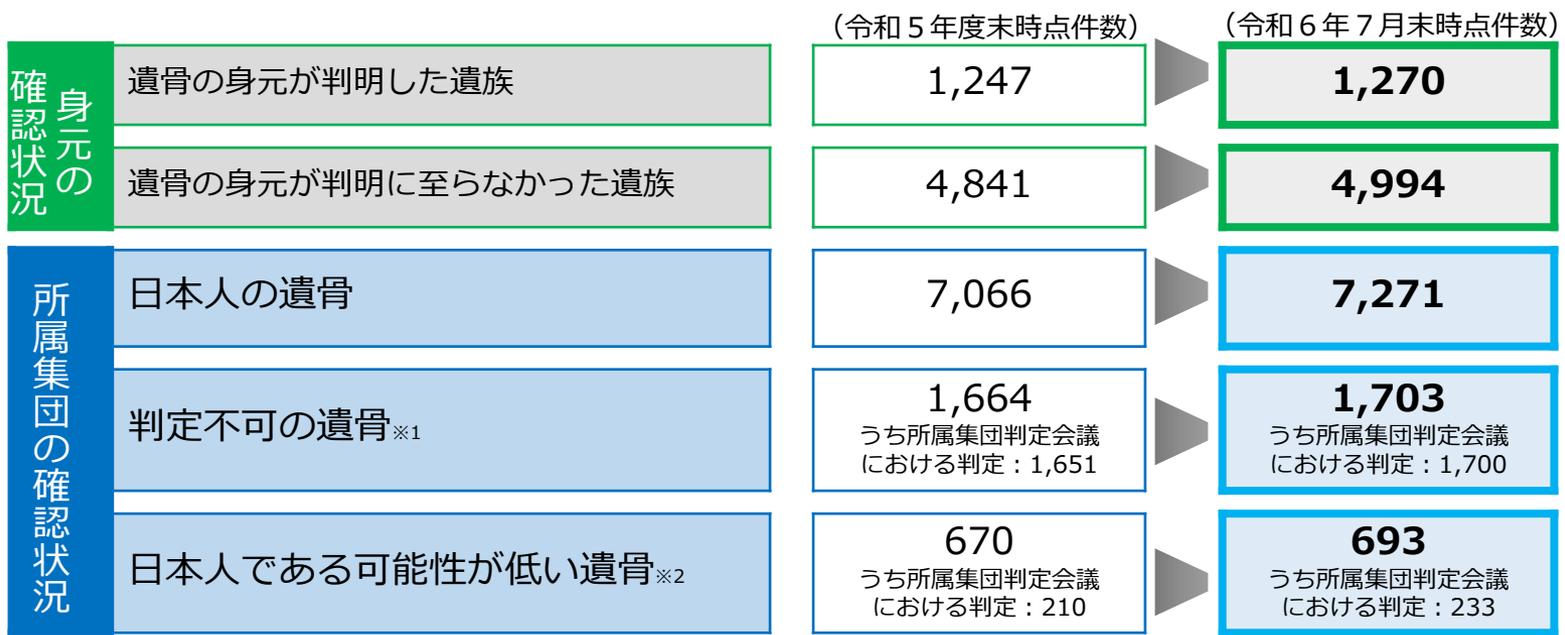
1. 身元特定DNA鑑定会議（戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定の実施状況について）

- 令和5年度は身元特定DNA鑑定会議を6回開催。1,038件の鑑定結果を審議した結果、16件について身元が判明した。
- 令和6年度はこれまでに1回開催。176件の鑑定結果を審議した結果、23件について身元が判明した。

2. 所属集団判定会議（戦没者遺骨の所属集団の判定状況について）

- 令和5年度は所属集団判定会議を5回開催。1,292（315）件を審議した結果、「日本人の遺骨である」が973（204）件、「判定不可」が209（1）件、「日本人である可能性が低い遺骨」が110（110）件となった。
- 令和6年度はこれまでに2回開催。277（224）件を審議した結果、「日本人の遺骨である」が205（193）件、「判定不可」が49（8）件、「日本人である可能性が低い遺骨」が23（23）件となった。

（注）（ ）内の数は次世代シーケンサによるSNP分析の結果等を踏まえた再審議（総合的判定）による判定結果の件数



※1 「戦没者遺骨の所属集団の鑑定及び鑑定方法の検討等に関する専門技術チーム 報告書」（令和2年3月25日）において、一部日本人の遺骨である可能性が低い遺骨も入ったロシア2事例、全てが日本人の可能性が低いとされたフィリピン10検体と、そのほか「戦没者遺骨のDNA鑑定人会議」において日本人でない遺骨が収容された可能性が新たに指摘された事例について」（令和元年12月18日）において公表した、ロシア4事例、ミャンマー2事例、ツバル1事例の計241件のうち、所属集団判定会議での未審議分を含む。

※2 「戦没者遺骨の所属集団の鑑定及び鑑定方法の検討等に関する専門技術チーム 報告書」（令和2年3月25日）において、日本人を主体とした埋葬地ではないとされたロシア7事例・460件を含む。

所属集団判定会議（令和5年12月及び令和6年7月）において総合的判定を実施した事案①

- 以下の遺骨計241件については、次世代シーケンサを用いたSNP分析を導入・実施し、所属集団の判定を行うこととしている。
 - ・「戦没者遺骨の所属集団の鑑定及び鑑定方法の検討等に関する専門技術チーム報告書」（令和2年3月25日）において指摘された、一部日本人の遺骨である可能性が低い遺骨も入ったロシア2事例及び全てが日本人の可能性が低いとされたフィリピン10検体
 - ・「戦没者遺骨のDNA鑑定人会議」において日本人でない遺骨が収容された可能性が新たに指摘された事例について」（令和元年12月18日）において公表した、ロシア4事例、ミャンマー2事例及びツバル1事例
- 令和5年12月15日にこのうち9事例・228件について、令和6年7月に10件についてSNP分析の結果等を含めて総合的判断を実施した。
- 審議の結果
 - ・「日本人の遺骨である」が126件
 - ・「日本人である可能性が低い遺骨」が112件

収容地域	収容時期	所属集団判定会議における審議結果		
		専門技術チームにおけるDNA鑑定結果	研究事業から得られたSNP分析結果等の新たな参照情報	総合的な判定結果
①ロシア (タンボフ州)	平成14年 5～6月	審議時期：令和2年3月 ⇒ 令和5年12月		
		判定不可(※) 35 日本人である可能性は低い 6	日本人 32 日本人の可能性が高い 4 日本人ではない 4 SNP分析による判定不能 1	日本人遺骨である 37 日本人遺骨である可能性が低い 4
②ロシア (ハバロフスク地方)	平成12年 7～8月 平成14年 6～7月 平成15年 7月	審議時期：令和2年3月 ⇒ 令和5年12月		
		判定不可(※) 54 日本人である可能性は低い 40	日本人 40 日本人の可能性が高い 2 日本人ではない可能性が高い 3 日本人ではない 49	日本人遺骨である 42 日本人遺骨である可能性が低い 52

(※) 専門技術チームの報告書において、「『判定不可』は『日本人の可能性が低い』と判断できないものであり、日本人の可能性を示すものも含まれる。」とされている。

所属集団判定会議（令和5年12月及び令和6年7月）において総合的判定を実施した事案②

収容地域	収容時期	所属集団判定会議における審議結果	
		研究事業から得られたSNP分析結果等の新たな参照情報	総合的な判定結果
③ロシア (イルクーツク州)	平成11年 8～9月	審議時期：令和5年12月	
		日本人 日本人ではない	日本人遺骨である 日本人遺骨である可能性が低い
④ロシア (タンボフ州)	平成16年 6～7月	審議時期：令和5年12月	
		日本人ではない	日本人遺骨である可能性が低い
⑤ロシア (イルクーツク州)	平成25年 7～8月	審議時期：令和5年12月	
		日本人 日本人ではない	日本人遺骨である 日本人遺骨である可能性が低い
⑥ロシア (クラスノヤルスク地方)	平成29年 7～8月 平成30年 8月	審議時期：令和5年12月	
		日本人 日本人ではない	日本人遺骨である 日本人遺骨である可能性が低い

所属集団判定会議（令和5年12月及び令和6年7月）において総合的判定を実施した事案③

収容地域	収容時期	所属集団判定会議における審議結果	
		研究事業から得られたSNP分析結果等の新たな参照情報	総合的な判定結果
⑦ツバル (ヌイ環礁フェヌアタブ島)	平成26年 2月	審議時期：令和5年12月	
		日本人ではない 1	日本人遺骨である可能性が低い 1
⑧ミャンマー (マングレー管区)	平成15年 3月	審議時期：令和5年12月	
		日本人ではない SNP分析による判定不能 1 1	日本人遺骨である可能性が低い 2
⑨ミャンマー (チン州)	平成29年 3月	審議時期：令和5年12月	
		日本人ではない 1	日本人遺骨である可能性が低い 1

収容地域	収容時期	所属集団判定会議における審議結果		
		専門技術チームにおけるDNA鑑定結果	研究事業から得られたSNP分析結果等の新たな参照情報	総合的な判定結果
⑩フィリピン	平成22年 6～7月	審議時期：令和2年3月 ⇒ 令和6年7月		
		日本人である可能性は低い 10	日本人ではない 10	日本人遺骨である可能性が低い 10

戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定に関する広報について

(厚生労働省ポスター・リーフレット)

【令和6年度における広報の取組】

- 新聞広告など様々な手段を通じて戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定の申請をご案内
- 戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定の取組周知を図るため、恩給及び援護年金受給者宛の受給額のお知らせに、リーフレット（右参照）を同封し、DNA鑑定の申請をご案内
- また、令和4年度末に開設した厚生労働省LINE公式アカウントを活用して、DNA鑑定の申請に関する情報提供を実施



(参考) 令和5年度に実施した広報の取組

- 令和5年7月に戦没者等の妻に対する特別給付金支給対象者への特別給付金のご案内にリーフレットを同封
- 令和5年7月に全国紙・ブロック紙及び沖縄県主要地方紙（計10紙）へ新聞広告
- 令和5年8月から、
 - ・ 日本遺族会の広報紙への掲載
 - ・ 地方自治体の広報紙への掲載
 - ・ 地方自治体におけるポスターの掲示及びリーフレットの設置
 - ・ (公社)全国老人福祉施設協議会の協力を得て、介護施設にポスターの掲示及びリーフレットの設置
- 令和5年9月に地方紙（計60紙）へ新聞広告
- 令和6年1月に沖縄県主要地方紙へ新聞広告



戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定申請のご案内

現在、右記の地域の戦没者のご遺族からDNA鑑定の申請を受け付けています。

厚生労働省が遺骨収集を行ってご遺骨の残体(DNA鑑定に使用する部位)を保管している地域

- ・硫黄島
 - ・インド
 - ・インドネシア
(西部ニューギニア含む)
 - ・沖縄
 - ・樺太
 - ・旧ソ連等
 - ・旧ソ連、モンゴル
 - ・タイ
- 中部太平洋地域
ウエーク島、ギルバート諸島、トラック諸島、バラオ諸島、マーシャル諸島、マリアナ諸島、メレヨン島
 - ・東部ニューギニア
 - ・ノモンハン
 - ・ビスマーク・ソロモン諸島
 - ・フィリピン
 - ・ミャンマー(ビルマ)

(50音順)
※令和6年2月末時点の状況。
他の地域もご遺骨の残体が採取され次第鑑定を実施します。

DNA鑑定料は国が全額負担します。

厚生労働省問い合わせ先 **03-3595-2219** 受付時間(平日のみ) 9:30-18:00
 詳細はホームページをご覧ください
 戦没者遺骨DNA鑑定 無料



戦没者遺骨鑑定に関する今後の取組内容について

1 戦没者遺骨の鑑定体制について

- 令和4年9月に厚労省において専門家を雇用し分析施設を設置。日本人の遺骨と判定しなければ遺骨全体の送還が実現しないため、検体が日本に送還された後に直ちに遺骨の分析に着手できるよう、分析施設と鑑定機関により鑑定を実施。

2 戦没者遺骨鑑定に関する研究等について

事業開始	事業名	実施機関
令和2年度	①戦没者遺骨の次世代シーケンサによるSNP分析事業	国立科学博物館
	②形質人類学的鑑定人の養成に係る研究事業	国立科学博物館
令和4年度	③戦没者遺骨の年代測定及び所属集団判定における同位体分析の活用に係る研究事業	東京大学総合研究博物館
令和6年度	④同位体分析を用いた戦没者遺骨の所属集団判定の高精度化	東京大学総合研究博物館等

【令和6年度の取組】 ※いずれも継続実施

- 1 令和5年度までに1,487件を分析。令和4年12月から、SNP分析結果を含めて遺留品や埋葬情報等を総合的に勘案し、専門家による総合的な判断を実施。令和6年度は約500件を分析予定。
また、身元特定で判定不可となったmtDNAシーケンスについて、次世代シーケンス解析により得られるデータがあれば、身元特定に資する情報として活用を検討。
- 2 令和5年度までに8名の形質鑑定人を養成。今後、遺骨収容事業に協力いただく予定。
- 3 令和6年度は骨アパタイトの続成作用の影響検討、ストロンチウム分析の前処理等の標準手順作成、歯アパタイトから炭素・酸素を分析するとともに、日本人に関する硫黄等の確率分布の作成などに取り組む予定。
- 4 令和6～8年度の3か年。令和6年度は、パプアニューギニア（PNG）現代人から試料採取し、各種同位体分析を行いデータベース（DB）を作成。PNG遺跡出土人骨等の各種同位体分析に関する文献を調査し、当該DBの妥当性を検証。また、既に公表されている各国現代人集団の各種同位体分析データを用いて、集団判別に係る統計的手法の予備検討などに取り組む予定。

〈厚生労働科学研究〉令和3年度～5年度実施 戦没者遺骨の身元特定に係るDNA鑑定の精度向上に関する研究

研究要旨：厚生労働省の戦没者遺骨のDNA鑑定事業の効率的な遂行のために、
『戦没者遺骨鑑定の標準プロトコルの作成』を行う。

【各鑑定人で違いが見られたDNAの抽出工程についての比較実証実験】

➢ 10種の骨試料を使用し、それぞれ5通りの抽出方法を実施

骨試料を粉砕化した上で、
3種のDNA抽出キットで抽出

- ① NucleoSpin DNA Forensic
- ② QIAamp DNA Investigator Kit
- ③ TBONE EX KIT

骨片を作成し、市販の試薬（DNAエキストラクターFMキット）で溶解した上で、
2種のDNA精製キットでDNAを抽出

- ④ フェノール・クロロホルム処理後
NucleoSpin Gel and PCR Clean-up
- ⑤ QIAamp DNA Investigator Kit

抽出後のDNAの定量/解析

- ・ Quantifiler Trio SNA Quantification KitでヒトDNAの定量
- ・ GlobalFiler PCR Amplification KitとSeqStudio
ジェネティックアナライザーでSTR解析

〈結果〉

- 5種類の抽出方法で得られたDNA量に有意差は認められなかった。
- STR解析において最も情報を得られたのは④の方法であった。

【DNA抽出推奨プロトコル】

- i. 歯科用ドリルを用いて適度な大きさ(数cm四方)の骨試料を切り出す。
- ii. 試料を中性洗剤等で洗浄する。
- iii. (次亜塩素酸に浸透後、) 風乾する。
- iv. 歯科用ドリルを用いて、骨試料の表面を削る。
- v. マルチピースショッカーを用いて5mm四方程度の骨片を作成する。(同時産出される骨粉も回収し、以下同様にしてDNA抽出)
- vi. 試料をEDTAに浸透し、36°C(または室温)で2日間脱灰する。
- vii. DNAエキストラクターFMキットを用いて56°Cで一晩試料を溶解させる。
- viii. 溶解液をTE飽和フェノール、およびフェノール/クロロホルム/イソアミルアルコール(25:24:1)で処理する。
- ix. 上清をNucleoSpin Gel and PCR Clean-upを用いて精製し、DNAを抽出する。
- x. 得られたDNAを用いて、Globalfiler PCR Amplification Kit や Yfiler Plus PCR Amplification Kit によるSTR型の解析や、ミトコンドリアDNAの塩基配列の決定を行う。

〈厚生労働科学研究〉令和3年度～5年度実施 戦没者遺骨の身元特定に係るDNA鑑定の精度向上に関する研究

研究要旨

厚生労働省の戦没者遺骨のDNA鑑定事業の効率的な遂行のために、
『多数の遺骨・ご遺族から該当する血縁者をスクリーニングする専用ソフトウェアの開発』を行う。

従前のマッチング作業

- ソフトウェア「DNA・VIEW」を使用
 - Identifiler (PCR試薬:15座位) による常染色体STR型に対応
 - 検出アレルのみの対応 (不検出は考慮されない)
- Y-STR型、ミトコンドリアDNA型のマッチングは**手作業**

新たなマッチング作業

- 「research」※導入
 - GlobalFiler (PCR試薬:21座位) による常染色体STR型に対応
 - 不検出アレルも考慮し対応
 - Y-STR型、ミトコンドリアDNA型と併せて**一括同時解析**
 - 尤度比を自動算出
 - DNA型の一致の程度設定についてカスタマイズ可能

特徴：直感的な操作が可能で、データの視認性に優れている
DNA型の一部が不検出でも血縁者候補のリストアップが可能
ユーザーの目的にあわせて設定項目等をカスタマイズ可能 など

効果：戦没者遺骨のDNA鑑定事業における人為的負担の軽減
効率的かつ高精度な身元確認作業への貢献が見込まれる

※令和6年度から実用化に向けた試験運用による検証を開始

※身元確認用スクリーニングソフトウェア 「research」

ソフトウェア画面の一部

The screenshot shows the main interface of the 'research' software. It has a blue header with the version 'research ver. 0.14.0' and navigation tabs: 'Load', 'Result', 'Project', 'Database', 'Settings', 'Example files', and 'Manual'. The main area is divided into three columns: 'STR', 'Y-STR', and 'mtDNA'. Each column has a 'Victim database' and a 'Reference database' section, each with a 'Browse...' button and 'No file selected' text. Below these is an 'Allele frequencies' section with a 'Browse...' button. A blue 'Analyze' button is at the bottom left.

リストアップされた画面

The screenshot shows the 'Result' screen of the 'research' software. It has a blue header with the version 'research ver. 0.14.0' and navigation tabs: 'Load', 'Result', 'Project', 'Database', 'Settings', 'Example files', and 'Manual'. The main area is titled 'Result' and has a 'Summary' tab selected. Below the title is a 'Display setting' panel with buttons for 'Default display', 'Identified pairs', 'Multiple candidates', and 'Not support lineage'. There is also a 'Minimum LR displayed' input field set to '100' and an 'Apply' button. The main table shows analysis results with columns: 'Victim', 'Reference', 'Assumed relationship', 'LR', 'Estimated relationship', 'Paternal lineage', and 'Maternal lineage'. The table has 12 rows of data. A 'Download' button is at the bottom left. At the bottom right, it says 'Showing 1 to 10 of 12 entries' and 'Previous 1 2 Next'.

Victim	Reference	Assumed relationship	LR	Estimated relationship	Paternal lineage	Maternal lineage
V7	R7	Father_Son	8.89e+8	Father_Son	Support	Support
V8	R8	Father_Son	6.20e+8	Father_Son	Support	Not support
V14	R14	Brother_Brother	2.85e+7	Brother_Brother	Support	Support
V9	R9	Father_Son	1.34e+7	Father_Son	Support	Not support
V11	R11	Mother_Daughter	1.23e+7			Not support
V16	R16	Brother_Sister	2.01e+6	Brother_Sister	Support	Support
V15	R15	Brother_Sister	1.57e+6	Brother_Sister	Support	Support
V7	R30	Brother_Brother	1.02e+5	Brother_Brother	Support	Support
V10	R10	Mother_Daughter	4.36e+4	Mother_Daughter	Support	Support
V12	R12	Mother_Daughter	3.05e+3	Mother_Daughter	Support	Support

戦没者遺骨鑑定における同位体分析の活用に関する委託研究等について

- 戦没者遺骨の同位体分析は、結果の信頼性を担保する観点から、骨・歯に含まれる複数の成分を分析する必要がある（コラーゲン中の炭素・窒素・硫黄の元素と、アパタイト中の酸素・ストロンチウム等の元素）
- 「日本人遺骨の蓋然性」を判断するための日本人に関する同位体の確率分布を作成するため、令和4年度から、①標準分析法、②年代測定等に関する基準値、③日本人に関する安定同位体分析データの作成について研究事業を実施（東京大学総合研究博物館に委託）
- 一方で、当該確率分布に日本人以外の現地人等が含まれる可能性は否定できないため、今後、海外の同位体分析データとの比較検証を通じて、帰属集団判別の確率分布の精度向上を図る（厚生労働科学研究で実施）

		令和4年度研究	令和5年度研究	令和6年度研究	令和7年度以降	
①標準分析法の作成 〔骨・歯から、同位体分析に必要な試料を採取し、分析するための標準分析法を作成〕	骨・歯コラーゲン分析法	分析法作成				
	歯アパタイト分析法		分析法作成			
	骨アパタイト分析法			続成作用を検証	分析法作成	
②年代測定等に関する基準値の作成 〔同位体分析による年代測定から、遺骨が近世現代人かどうかを判定する基準を作成〕	放射性炭素同位体分析による基準	沖縄古墓判定で用いる年代測定に関する基準値の作成	年代測定に関する基準値の検証			
	炭素・窒素に基づく食性分析による基準					
③日本人に関する安定同位体分析データの作成 〔日本人に関する安定同位体分析データを収集・精査し、日本人遺骨の蓋然性が高いかどうかを判定するために、日本人に関する安定同位体の確率分布を作成〕	食習慣	炭素に係る確率分布	日本人の安定同位体基準データの作成	日本人の確率分布の作成	<厚生労働科学研究> 海外の分析データと比較検証	
		窒素に係る確率分布				
		硫黄に係る確率分布				
	水	降水	酸素に係る確率分布	日本人の安定同位体基準データの作成	日本人の確率分布の作成	<厚生労働科学研究> 海外の分析データと比較検証
		地質	ストロンチウムに係る確率分布	日本人の安定同位体基準データの作成	日本人の確率分布の作成	<厚生労働科学研究> 向上

同位体分析研究の鑑定プロセスへの検討について

- 同位体分析については、研究事業の成果を厚生労働省「戦没者遺骨鑑定センター」を通じて、形質人類学やDNA鑑定の専門家と共有し、現在の鑑定プロセスへの活用について検討する。

同位体分析の研究事業

鑑定プロセスへの検討

令和4年度研究成果

- 骨・歯コラーゲンに関する標準分析法の作成
- 放射性炭素同位体分析による年代測定に係る基準値の作成
- 炭素及び窒素安定同位体比に関する日本人データの収集、分析

(令和5年度内)

- 令和4年度研究内容の報告
- 戦没者遺骨を対象に
 - ・放射性炭素同位体分析結果
 - ・炭素や窒素等の安定同位体分析結果について、専門的に検証

令和5年度研究成果

- 年代測定に関する基準値の検証
- 炭素及び窒素安定同位体比に関する日本人の確率分布の作成
- 歯アパタイトに関する標準分析法の作成

(令和6年度以降)

- 令和5年度研究内容の報告
- 沖縄収容遺骨の古墓判定への適用
- これまでに得られた研究内容を参考に、所属集団判定に同位体分析を活用する具体的方法などについて、運営会議の専門家等と検討

令和6年度の研究

- 硫黄及び酸素安定同位体比に関する日本人データの収集、分析、確率分布の作成
- 骨アパタイトに関する標準分析法を作成する上で必要な続成作用の検証
- ストロンチウム安定同位体比に関する日本人データの収集、分析など

(同位体分析の活用例)

- ・形質鑑定やDNA鑑定とあわせて、所属集団を総合的に判断するためのデータとして活用
- ・DNA情報では判断ができない事案への活用
- ・将来的に、DNA鑑定を実施する前さばきとなるスクリーニングとしての活用

(参考資料)

DNA鑑定の実施状況（令和6年7月末現在）

（括弧内は令和5年3月末時点の件数）

検体数 15,712 (13,889)	DNA抽出済み 13,089 (12,373)	身元が判明した遺骨 1,270 (1,231)	
		日本人の遺骨であることの確認状況	日本人の遺骨 7,271 (6,093)
			判定不可 1,375 (1,650) ※1 <small>・うち所属集団判定会議における判定: 1,372 (1,409)</small>
			日本人である可能性が低い遺骨 693 (560) ※2 <small>・うち所属集団判定会議における判定: 233 (100)</small>
			今後、所属集団の判定を行う予定 2,483 (3,080)
DNA未抽出（今後実施予定のもの） 1,856 (1,516) <small>・その他、現在抽出中のもの767</small>			

※1 「戦没者遺骨の所属集団の鑑定及び鑑定方法の検討等に関する専門技術チーム 報告書」（令和2年3月25日）において、一部日本人の遺骨である可能性が低い遺骨も入ったロシア2事例、全てが日本人の可能性が低いとされたフィリピン10検体と、そのほか「「戦没者遺骨のDNA鑑定人会議」において日本人でない遺骨が収容された可能性が新たに指摘された事例について」（令和元年12月18日）において公表した、ロシア4事例、ミャンマー2事例、ツバル1事例の計241件のうち、所属集団判定会議での未審議分を含む。

※2 「戦没者遺骨の所属集団の鑑定及び鑑定方法の検討等に関する専門技術チーム 報告書」（令和2年3月25日）において、日本人を主体とした埋葬地ではないとされたロシア7事例・460件を含む。

鑑定に必要なDNA抽出・分析を実施した遺骨・遺族検体数の推移

(データ抽出件数)

令和6年7月末現在(単位:件)

年度	遺骨件数	遺族件数	(参考) 鑑定機関数
平成29年度	202	191	11機関
平成30年度	330	397	11機関
令和元年度	768	502	12機関
令和2年度	955	553	12機関
令和3年度	684	754	12機関
令和4年度	519	1,611	13機関
令和5年度	1,005	1,072	13機関
令和6年度	890 (40)	165 (46)	11機関

(注1) 上記件数には、再分析した件数を含む。

(注2) 令和6年度の件数には、現在DNA抽出中のものを含む。このうち、()はデータ抽出済み件数。

戦没者遺骨の身元特定DNA鑑定会議の審議について①

身元特定DNA鑑定会議について

戦没者の遺骨を関係遺族にお返しするため、平成15年度から、記名等のある遺留品等を手掛かりに関係遺族を推定できる場合には、希望する遺族に対して国費により身元特定のためのDNA鑑定を実施している。

現在、DNA鑑定の専門家で構成される本会議において、戦没者遺骨と関係遺族に係る個別のDNA鑑定を行っている。

【会議概要】 議事要旨は厚生労働省ホームページにおいて公表しています。 ※血縁関係の確認ができたものについて、特に記載のないものは手掛かり情報がある件数

(令和2年度)

1 第1回会議 (令和2年7月29日開催)

- 63件について鑑定を行った。このうち、血縁関係の確認ができたものが3件（うち手掛かり情報なし1件）。血縁関係の確認ができなかったものが49件。11件については、より精度の高い分析を行ったうえで、今後再確認することとなった。

2 第2回会議 (令和2年9月29日開催)

- 54件について鑑定を行った。このうち、血縁関係の確認ができたものが3件。血縁関係の確認ができなかったものが49件。2件については、より精度の高い分析を行ったうえで、今後再確認することとなった。他に第1回会議で保留扱いとした手掛かり情報なし1件について血縁関係の確認ができたことの報告を行った。

3 第3回会議 (令和2年12月22日開催)

- 81件について鑑定を行った。このうち、血縁関係の確認ができたものが9件（うち手掛かり情報なし2件）。血縁関係の確認ができなかったものが65件。7件については、より精度の高い分析を行ったうえで、今後再確認することとなった。

4 第4回会議 (令和3年2月17日開催)

- 28件について鑑定を行った。このうち、血縁関係の確認ができたものが4件。血縁関係の確認ができなかったものが18件。6件については、より精度の高い分析を行ったうえで、今後再確認することとなった。

5 第5回会議 (令和3年3月23日開催)

- 60件について鑑定を行った。このうち、血縁関係の確認ができたものが6件。血縁関係の確認ができなかったものが5件。49件については、より精度の高い分析を行ったうえで、今後再確認することとなった。

(令和3年度)

6 第6回会議 (令和3年6月22日開催)

- 53件について鑑定を行った。血縁関係の確認ができたものが1件。血縁関係の確認ができなかったものが51件。1件については、より精度の高い分析を行ったうえで、今後再確認することとなった。

7 第7回会議 (令和3年9月22日開催)

- 110件について鑑定を行った。血縁関係の確認ができたものが4件。血縁関係の確認ができなかったものが103件。3件については、より精度の高い分析を行ったうえで、今後再確認することとなった。

戦没者遺骨の身元特定DNA鑑定会議の審議について②

8 第8回会議（令和3年12月15日開催）

- 110件について鑑定を行った。血縁関係の確認ができたものが5件（注1）。血縁関係の確認ができなかったものが105件。
（注1）前回の第7回会議で血縁関係が確認できたものと同一個体であることが確認できた1件を含む。

9 第9回会議（令和4年2月9日開催）

- 114件について鑑定を行った。血縁関係が確認できたものが2件（注2）。血縁関係が確認できなかったものが112件。
（注2）第9回会議で血縁関係が確認できた2件のうち1件については、第10回会議で結論を保留し、必要な分析を行った上で、今後再確認することとなった。

10 第10回会議（令和4年3月23日開催）

- 124件について鑑定を行った。血縁関係が確認できなかったものが122件。2件については、血縁関係の鑑定をしたものの結論を保留し、必要な分析を行った上で、今後再確認することとなった。

（令和4年度）

11 第11回会議（令和4年6月22日開催）

- 185件について鑑定を行った。血縁関係が確認できたものが5件（注3）。血縁関係が確認できなかったものが178件。2件については、血縁関係の鑑定をしたものの結論を保留し、必要な分析を行った上で、今後再確認することとなった。
（注3）第7回及び第8回会議で血縁関係の確認できたものと同一個体であることが確認できた1件、複数の個体があり、そのうち一部の個体について再度分析等した上で、結果を次回以降に報告することとなった1件、専門家による形質的な確認を行った上で、結果を次回以降に報告することとなった1件を含む。

12 第12回会議（令和4年9月14日開催）

- 174件について鑑定を行った。血縁関係が確認できたものが2件（注4）。血縁関係が確認できなかったものが164件。8件については、血縁関係の鑑定をしたものの結論を保留し、必要な分析を行った上で、今後再確認することとなった。
（注4）前回の第11回会議で血縁関係が確認できたものと同一個体であることが確認できた1件を含む。

13 第13回会議（令和4年12月21日開催）

- 238件について鑑定を行った。血縁関係が確認できたものが9件（注5）。血縁関係が確認できなかったものが198件。31件については、血縁関係の鑑定をしたものの結論を保留し、必要な分析を行った上で、今後再確認することとなった。
（注5）手掛かり情報なしの遺骨との間で鑑定を行った1件、その他、検出技術・検出キットの精度等を考慮し再度鑑定を行ったものを含む。

14 第14回会議（令和5年2月15日開催）

- 195件について鑑定を行った。血縁関係が確認できたものが3件。血縁関係が確認できなかったものが184件。8件については、血縁関係の鑑定をしたものの結論を保留し、必要な分析等を行った上で、今後再確認することとなった。

15 第15回会議（令和5年3月29日開催）

- 179件について鑑定を行った。血縁関係の確認ができたものが5件（注6）。血縁関係の確認ができなかったものが174件。
（注6）第6回会議で血縁関係が確認できたものと同一個体であることが確認できた1件を含む。

戦没者遺骨の身元特定DNA鑑定会議の審議について③

(令和5年度)

16 第16回会議 (令和5年5月24日開催)

- 160件について鑑定を行った。血縁関係が確認できたものが1件。血縁関係が確認できなかったものが157件。2件については、血縁関係の鑑定をしたものの結論を保留し、必要な分析等を行った上で、今後再確認することとなった。

17 第17回会議 (令和5年7月26日開催)

- 165件について鑑定を行った。血縁関係が確認できたものが0件。血縁関係が確認できなかったものが162件。3件については、血縁関係の鑑定をしたものの結論を保留し、必要な分析等を行った上で、今後再確認することとなった。

18 第18回会議 (令和5年9月27日開催)

- 193件について鑑定を行った。血縁関係が確認できたものが7件(注7)。血縁関係が確認できなかったものが184件。2件については、血縁関係の鑑定をしたものの結論を保留し、必要な分析等を行った上で、今後再確認することとなった。
(注7) 検出技術・検出キットの精度等を考慮し再度鑑定を行ったものを含む。

19 第19回会議 (令和5年11月29日開催)

- 185件について鑑定を行った。血縁関係が確認できたものが6件(注8)。血縁関係が確認できなかったものが173件。6件については、血縁関係の鑑定をしたものの結論を保留し、必要な分析等を行った上で、今後再確認することとなった。
(注8) 専門家による形質的な確認を行った上で、結果を次回以降に報告することとなった1件、その他、検出技術・検出キットの精度等を考慮し再度鑑定を行ったものを含む。

20 第20回会議 (令和6年1月31日開催)

- 181件について鑑定を行った。血縁関係が確認できたものが1件(注9)。血縁関係が確認できなかったものが179件。1件については、血縁関係の鑑定をしたものの結論を保留し、必要な分析等を行った上で、今後再確認することとなった。
(注9) 検出技術・検出キットの精度等を考慮し再度鑑定を行ったもの。

21 第21回会議 (令和6年3月19日開催)

- 171件について鑑定を行った。血縁関係が確認できたものが1件。血縁関係が確認できなかったものが167件。3件については、血縁関係の鑑定をしたものの結論を保留し、必要な分析等を行った上で、今後再確認することとなった。

(令和6年度)

22 第22回会議 (令和6年6月26日開催)

- 177件について鑑定を行った。血縁関係が確認できたものが23件(注10)。血縁関係が確認できなかったものが153件。1件については、血縁関係の鑑定をしたものの結論を保留し、必要な分析等を行った上で、今後再確認することとなった。
(注10) 検出技術・検出キットの精度等を考慮し再度鑑定を行ったものを含む。

戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定結果を審議した結果

令和6年7月末現在（単位：件）

年 度	身元が判明	身元判明に至らない	審議件数
平成15年度	8	0	8
平成16年度	47	24	71
平成17年度	157	36	193
平成18年度	168	245	413
平成19年度	149	187	336
平成20年度	145	71	216
平成21年度	86	76	162
平成22年度	46	60	106
平成23年度	30	15	45
平成24年度	32	65	97
平成25年度	68	126	194
平成26年度	65	125	190
平成27年度	43	93	136
平成28年度	40	394	434
平成29年度	16	50	66
平成30年度	49	444	493
令和元年度	25	231	256
令和2年度	26	186	212
令和3年度	10	493	503
令和4年度	21	898	919
令和5年度	16	1,022	1,038
令和6年度	23	153	176
計	※1,270	4,994	6,264

※身元判明数の地域別内訳旧ソ連地域：1,237 南方等：33

戦没者遺骨の所属集団判定会議の審議について①

所属集団判定会議について

「戦没者遺骨のDNA鑑定人会議」において、収容された遺骨の一部について、日本人の遺骨ではない可能性が指摘されていたにもかかわらず、適切な対応がなされていなかったことから、事業の見直しを行い、令和2年5月に見直し方針を公表し、日本人の遺骨であるかの判定を、専門家による「所属集団判定会議」で行うこととした。

【会議概要】 ※議事要旨は厚生労働省ホームページにおいて公表しています。

(令和2年度)

1 第1回会議 (令和2年7月31日開催)

○ 所属集団判定会議について

当面の検討課題等を整理し、日本人と判定する基準、遺骨収容に関する技術の向上等について、検討していくこととされた。

○ 日本人遺骨の判定について

国際的なデータベースを基に日本人と判定する基準(判定基準)を設定するに当たり整理すべき事項について議論を行った。今後さらに具体的な判定基準を議論していくこととされた。判定基準の議論を行う際、令和元年8月に検体を採取したカザフスタン(第347収容所レニノゴルスク市)埋葬地の14検体のDNAデータ等を資料として検討した。14検体のうち、2検体については日本人の遺骨である蓋然性が低く、その他の12検体については日本人の遺骨である蓋然性があるが、判定結果を確定するには至らず、引き続き、判定基準を含め議論を行い、日本人の遺骨であるか否かを判定することとされた。

2 第2回会議 (令和2年10月2日開催)

○ 日本人遺骨の判定について

STR型を基本とした分析(Y-STR、ミトコンドリアDNA)結果を基に国際的に利用されているWeb上のデータベース(YHRD、EMPOP)を利用して導き出したY染色体・ミトコンドリアDNAのハプログループと埋葬地・収容地の性格区分により日本人の遺骨の蓋然性を判定する基準について検討した。

○ カザフスタン(第347収容所レニノゴルスク市)埋葬地の判定について

令和元年8月に検体を採取したカザフスタン(第347収容所レニノゴルスク市)埋葬地の14検体について判定を行った。

3 第3回会議 (令和2年12月3日開催)

○ ロシア、沖縄、マーシャル諸島、ビスマーク・ソロモン諸島、キリバス、ウェーク島、ミャンマー、東部ニューギニア、フィリピンの遺骨の検体について判定が行われた。

4 第4回会議 (令和3年3月10日開催)

○ 硫黄島、樺太、東部ニューギニア等(オーストラリア・クイーンズランド博物館)、ロシアの遺骨の検体について判定が行われた。

戦没者遺骨の所属集団判定会議の審議について②

(令和3年度)

5 第5回会議(令和3年6月10日開催)

- ロシア、カザフスタン、パプアニューギニア、パラオ、ミャンマーの遺骨の検体について判定が行われた。

6 第6回会議(令和3年9月13日開催)

- ロシア、ベトナム、インド、タイ、カザフスタン、ソロモン諸島、硫黄島の遺骨の検体について判定が行われた。

7 第7回会議(令和3年12月20日開催)

- ロシア、占守島、樺太、ノモンハン、米国(ウェーク島)、ミクロネシア(ウォーレイアイ環礁)の遺骨の検体について判定が行われた。

8 第8回会議(令和4年1月11日開催)

- インドネシア、ロシア、フィリピン、マーシャル諸島、ミャンマー、パラオの遺骨の検体について判定が行われた。

9 第9回会議(令和4年3月28日開催)

- ロシア、硫黄島、沖縄、キリバス、トラック諸島、東部ニューギニアの遺骨の検体について判定が行われた。

(令和4年度)

10 第10回会議(令和4年6月30日開催)

- ロシア、カザフスタン、東部ニューギニアの遺骨の検体について判定が行われた。

11 第11回会議(令和4年10月12日開催)

- ロシア、トルクメニスタン、ビスマーク諸島、ソロモン諸島、東部ニューギニアの遺骨の検体について判定が行われた。

12 第12回会議(令和4年12月27日開催)

- モンゴル、ロシア、マリアナ諸島、ビスマーク諸島、ソロモン諸島、沖縄、東部ニューギニアの遺骨の検体について判定が行われた。

13 第13回会議(令和5年3月28日開催)

- ロシア、ミャンマー、硫黄島、東部ニューギニア、マリアナ諸島、キリバス、フィリピン、ソロモン諸島、沖縄、ビスマーク諸島、米国受領分の遺骨の検体について判定が行われた。

戦没者遺骨の所属集団判定会議の審議について③

(令和5年度)

14 第14回会議 (令和5年6月2日開催)

- ロシア、硫黄島、ソロモン諸島、ウェーク島、東部ニューギニア、フィリピン、パラオ諸島の遺骨の検体について判定が行われた。

15 第15回会議 (令和5年7月3日開催)

- ロシア、カザフスタン、樺太、硫黄島、米国受領分、ビスマーク諸島、ソロモン諸島、インドの遺骨の検体について判定が行われた。

16 第16回会議 (令和5年10月12日開催)

- 硫黄島、ビスマーク諸島、マリアナ諸島の遺骨の検体について判定が行われた。

17 第17回会議 (令和5年12月15日開催)

- 硫黄島、ロシア、ツバル、ミャンマーの遺骨の検体について判定が行われた。

18 第18回会議 (令和6年3月14日開催)

- 硫黄島、ビスマーク諸島、マリアナ諸島、ソロモン諸島、東部ニューギニアの遺骨の検体について判定が行われた。

(令和6年度)

19 第19回会議 (令和6年5月31日開催)

- パラオ諸島、硫黄島、インド、ノモンハン、ビスマーク諸島の遺骨の検体について判定が行われた。

20 第20回会議 (令和6年7月8日開催)

- 沖縄、マリアナ諸島、フィリピン、パラオ諸島、インド、タイ、カザフスタンの遺骨の検体について判定が行われた。

所属集団判定会議において審議した判定結果

令和6年7月末現在（単位：件）

年 度	日本人遺骨	日本人遺骨の 可能性が低い	判定不可	合計
令和2年度	829	40	130	999
令和3年度	3,205	56	1,110	4,371
令和4年度	2,059 (23)	4 (0)	202 (10)	2,265 (33)
令和5年度	973 (204)	110 (110)	209 (1)	1,292 (315)
令和6年度	205 (193)	23 (23)	49 (8)	277 (224)
合計	7,271 (420)	233 (133)	1,700 (19)	9,204 ^{注1} (572)

(注1) 合計件数は、これまでに所属集団判定会議において審議した累計件数である（再審議分を含む）。（ ）内の数は、SNP分析結果等を踏まえた再審議（総合的判定）による判定結果の件数を示す。

(注2) 重複分（確定前の判定結果）を除いた判定内訳は、日本人遺骨：7,271(420)件、日本人遺骨の可能性が低い：233(133)件、判定不可：1,372(18)件。

(注3) 上記の表に掲載された審議件数のほか、遺骨収集有識者会議「戦没者遺骨の所属集団の鑑定及び鑑定方法の検討等に関する専門技術チーム」によるロシア7事例の判定により日本人遺骨の可能性が低いと判定された遺骨が460件ある。

また、同チーム報告書（令和2年3月25日）において、一部日本人の遺骨である可能性が低い遺骨も入ったロシア2事例、全てが日本人の可能性が低いとされたフィリピン10検体、及び、「「戦没者遺骨のDNA鑑定人会議」において日本人でない遺骨が収容された可能性が新たに指摘された事例について」（令和元年12月18日）において公表した、ロシア4事例、ミャンマー2事例、ツバル1事例の遺骨計241件については、次世代シークエンサを用いたSNP分析を導入・実施し、所属集団の判定を行うこととし、これまでに238件について、所属集団の判定を行った。

地域別保管検体数

令和6年7月末現在（単位：件）

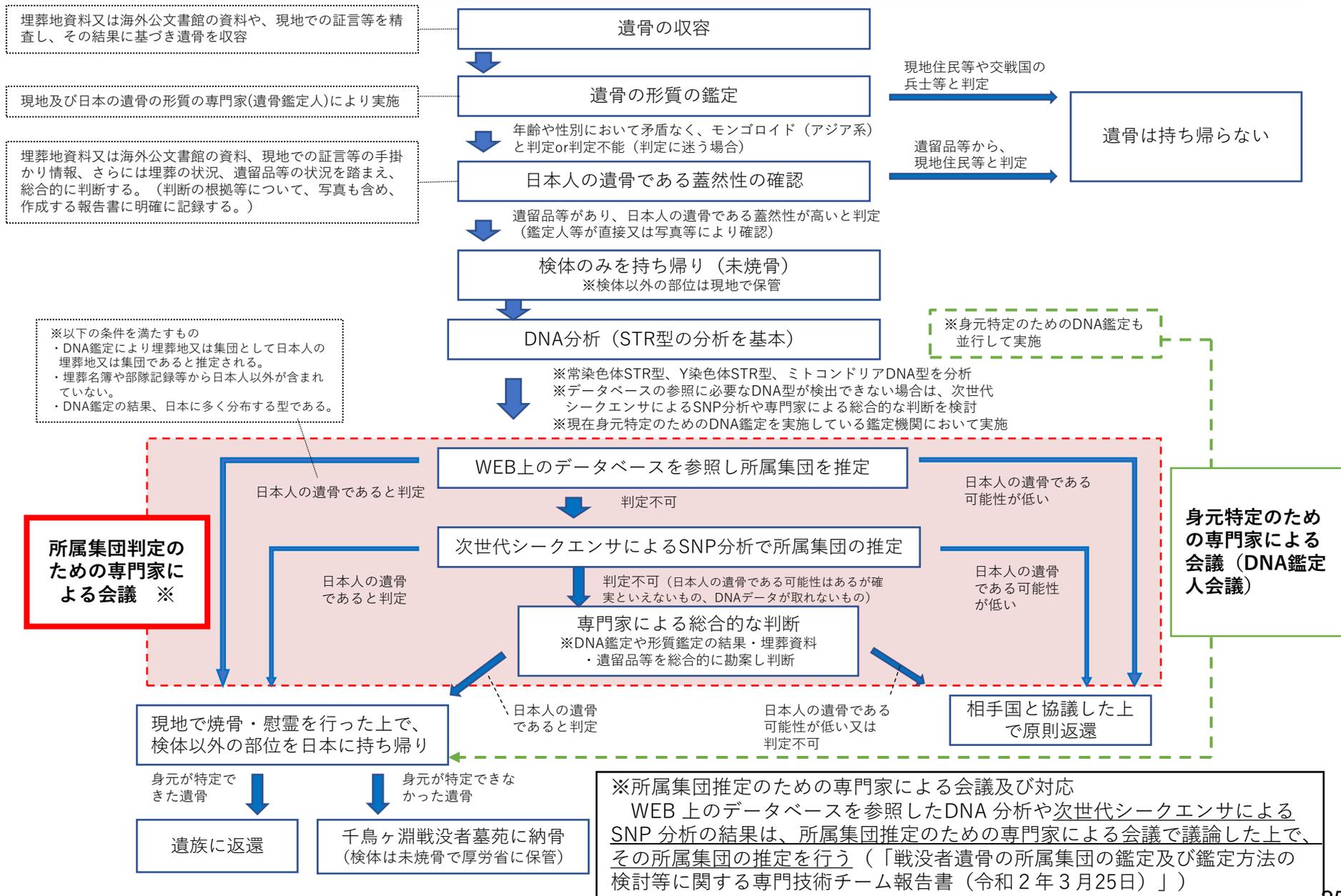
収集地域	検体数
旧ソ連	6,837
モンゴル	624
樺太	67
ノモンハン	173
硫黄島	913
沖縄	1,417
フィリピン	51
インドネシア	29
タイ	1
インド	18
ミャンマー	188

収集地域	検体数
東部ニューギニア	381
ビスマーク・ソロモン諸島	1,252
マリアナ諸島	962
パラオ諸島	748
マーシャル諸島	141
ギルバート諸島（タラフ）	573
ウエーク島	6
トラック諸島	36
メレヨン島（ウォーレアイ）	6
ツバル	1
不明	18

※保管検体数とは、遺骨収集にて採取し厚労省が保管している検体。
（鑑定機関において鑑定中の検体を含む）

合計	14,442
-----------	---------------

現在の遺骨収容・鑑定プロセス



米国DPAA 2024年 科学サミット

(Scientific Summit in Seoul)

1. 日程・参加者等

- 2024年6月10日～14日の日程で、DPAAとMAKRI（韓国国防部戦死者収容身元特定局）の共催で韓国・ソウルで開催
- インド太平洋の12の国・機関から、歴史研究、人類学、法医学等専門家が出席
(米国、日本、韓国、インド、インドネシア、マレーシア、パラオ、フィリピン、パプアニューギニア、ソロモン諸島、ベトナム、北マリアナ諸島)

2. 開催目的・プレゼン内容等

- 開催の目的
各機関の間での科学的な協働を発展させ、各々の任務へ相互に利する最良の技量を探し出し、歴史研究、人類学、法医学を通し遺骨収集と身元特定の実験を共有する。
- 日本のプレゼン内容
 - ① 日本のNGS分析による鑑定（国立科学博物館 篠田館長・神澤研究主幹）
 - ② 日本人戦没者遺骨に関する同位体研究の状況（東京大学総合研究博物館 米田教授）
同位体分析ケースレポート（染田 事業専門官（併任 防衛医科大学校防衛医学研究センター付））
 - ③ 日本人戦没者人類学鑑定の概要と事例報告（巻島遺骨鑑定専門官）

(参考) 米国DPAAと厚生労働省のこれまでの主な連携

- DPAAとの間で、協力覚書の締結（2019年4月18日）
- ビスマーク・ソロモン諸島における日米共同鑑定（2018年9月、2019年12月）
- 加藤厚生労働大臣DPAA訪問（2020年1月）
- キリバス共和国タラワ環礁で収容されたDPAA管理下のアジア系遺骨2柱の身元特定・返還（2020年11月）
- DPAAオンライン開催「科学シンポジウム」参加（2021年5月）
- パラオ諸島における現地調査等へのDPAAのオブザーバ参加（2022年7月、2023年7月、11月）
- DPAA開催「科学サミット」参加（2022年9月）
- 同位体分析に関する日本・米国専門家会合を実施(2023年6月)

戦没者遺骨鑑定センター運営会議の 開催について

1. 目的

戦没者遺骨鑑定センターの業務の適正運営及び戦没者遺骨の鑑定の適正実施のため、戦没者遺骨鑑定センターにおいて「戦没者遺骨鑑定センター運営会議」（以下「会議」という。）を開催し、同センターの年度計画の審議を行うとともに、戦没者遺骨の鑑定方法の見直しや新たな鑑定技術の活用等について議論を行う。

2. 構成

会議の構成員は別紙のとおりとする（法医学、人類学等の専門的知識を有する者）。

3. 運営

会議は、率直な意見交換が損なわれるおそれがあることや DNA 情報等の個人に関する情報を保護する必要があるため非公開とする。

なお、会議終了後、可能な範囲で資料を公表し、議事要旨をホームページにおいて公開する。

4. その他

このほか、会議の運営に関し必要な事項は、戦没者遺骨鑑定センターにおいて定める。

戦没者遺骨鑑定センター運営会議 構成員

(五十音順、敬称略)

あさむら ひでき 浅村 英樹 ○	信州大学医学部法医学教室教授
しのだ けんいち 篠田 謙一	国立科学博物館館長
たまき けいじ 玉木 敬二	京都大学大学院医学研究科法医学講座名誉教授
はしもと まさつぐ 橋本 正次	東京歯科大学名誉教授

注 ○は座長

所属集団判定会議の開催について

1. 目的

戦没者遺骨について、DNA 鑑定や形質鑑定の結果、埋葬地資料、遺留品等を総合的に勘案し、日本人の遺骨であるか否かを判断するため、戦没者遺骨鑑定センターにおいて「所属集団判定会議」（以下「会議」という。）を開催する。

2. 構成

- (1) 会議の構成員は別紙のとおりとする（法医学、人類学等の専門的知識を有する者）。
- (2) 構成員の中から、DNA 鑑定分科会を参集する。

3. 運営

会議は、DNA 情報等の個人に関する情報を保護する必要があるため非公開とする。

なお、会議終了後、可能な範囲で資料を公表し、議事要旨をホームページにおいて公開する。

4. その他

このほか、会議の運営に関し必要な事項は、戦没者遺骨鑑定センターにおいて定める。

所属集団判定会議 構成員

(五十音順、敬称略)

あだち のぼる 安達 登 ※	山梨大学大学院総合研究部医学域法医学講座教授
きたがわ みさ 北川 美佐 ※	大阪医科薬科大学法医学教室技術員主幹
さかうえ かずひろ 坂上 和弘	国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ長
さか ひでき 坂 英樹	明海大学歯学部教授
しのだ けんいち 篠田 謙一 ○※	国立科学博物館館長
たけなか まさみ 竹中 正巳	鹿児島女子短期大学生生活科学科長・教授
はしもと まさつぐ 橋本 正次	東京歯科大学名誉教授
やまだ よしひろ 山田 良広 ※	神奈川歯科大学歯学部法医学講座歯科法医学分野教授

注 ○は座長

※は DNA 鑑定分科会構成員

身元特定 DNA 鑑定会議の開催について

1. 目的

戦没者遺骨について、DNA 鑑定の結果等を勘案して身元を特定し、遺族に返還するため、戦没者遺骨鑑定センターにおいて「身元特定 DNA 鑑定会議」（以下「会議」という。）を開催する。

2. 構成

会議の構成員は別紙のとおりとする（法医学等の専門的知識を有する者）。

3. 運営

会議は、DNA 情報等の個人に関する情報を保護する必要があるため非公開とする。

なお、会議終了後、可能な範囲で資料を公表し、議事要旨をホームページにおいて公開する。

4. その他

このほか、会議の運営に関し必要な事項は、戦没者遺骨鑑定センターにおいて定める。

身元特定 DNA 鑑定会議 構成員

(五十音順、敬称略)

あおき やすひろ 青木 康博	名古屋市立大学大学院 医学研究科法医学分野名誉教授
あさむら ひでき 浅村 英樹 ○	信州大学医学部法医学教室教授
あさり まさる 浅利 優	旭川医科大学法医学講座准教授
きたがわ みさ 北川 美佐	大阪医科薬科大学法医学教室技術員主幹
さいとう ひさこ 斉藤 久子	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科法 歯学分野准教授
たまき けいじ 玉木 敬二	京都大学大学院医学研究科法医学講座名誉教 授
なかむら やすたか 中村 安孝	東京歯科大学法歯学・法人類学講座講師
はしやだ まさき 橋谷田 真樹	関西医科大学医学部法医学講座准教授
ふくい けんじ 福井 謙二	厚生労働省社会・援護局戦没者遺骨鑑定センタ ーDNA 分析施設 DNA 鑑定分析官
まつすえ あや 松末 綾	福岡大学医学部法医学教室講師
みなぐち きよし 水口 清	東海大学医学部客員研究員
やまだ よしひろ 山田 良広	神奈川歯科大学歯学部法医学講座歯科法医学 分野教授
よしい とみお 吉井 富夫	元警視庁科学捜査研究所理事官

注 ○は座長

戦没者遺骨収集における同位体分析の活用に係る検討会の開催について

1. 目的

戦没者遺骨収集において収集した遺骨の年代測定・所属集団判定のために同位体分析を活用する具体的方法や、活用にあたっての課題等を議論・検討するために、援護担当の大臣官房審議官のもとで「戦没者遺骨収集における同位体分析の活用に係る検討会」（以下「検討会」という。）を開催する。

2. 構成

- (1) 検討会の構成員は別紙1のとおりとする（同位体分析の専門的知識を有する者）。
- (2) 検討会に座長を置き、座長は援護担当の大臣官房審議官が指名する。
- (3) 検討会の下に、別紙2のとおり、分析手順・データ検証等を目的としたワーキンググループを開催する。

3. 運営

- (1) 検討会は、原則としてWeb会議形式で開催する。
- (2) 検討会は、公開することにより率直な意見の交換が損なわれるおそれがあるため非公開とする。
なお、検討会終了後、可能な範囲で資料を公表し、議事要旨をホームページにおいて公開する。
- (3) 検討会の庶務は、社会・援護局事業課戦没者遺骨鑑定推進室において行う。

4. その他

このほか、検討会の運営に関し必要な事項は、座長が援護担当の大臣官房審議官と協議の上、定める。

戦没者遺骨収集における同位体分析の活用に係る検討会 構成員

(五十音順、敬称略)

がくはり たかし 覚張 隆史 ※	金沢大学古代文明・文化資源学研究所助教
そめだ ひでとし 染田 英利	社会・援護局事業課戦没者遺骨鑑定推進室 事業専門官 (併) 防衛医科大学校防衛医学研究センター付 (兼) 琉球大学非常勤講師
たやす いちろう 陀安 一郎 ※	総合地球環境学研究所 基盤研究部教授
よねだ みのる 米田 穰 ○※	東京大学 総合研究博物館放射性炭素年代 測定室教授

注 1) ○は座長

注 2) ※は、分析手順・データ検証等のワーキンググループ構成員

戦没者遺骨収集における同位体分析の活用に係る検討会
分析手順・データ検証等のワーキンググループ構成員

(五十音順、敬称略)

がくはり 覚張	たかし 隆史	金沢大学古代文明・文化資源学研究所助教
たやす 陀安	いちろう 一郎	総合地球環境学研究所 基盤研究部教授
よねだ 米田	みのる 穰 ○	東京大学 総合研究博物館放射性炭素年代測定室教授

注) ○は座長